

第5回 池袋駅周辺地域再生委員会 交通検討部会

議 事 録

I. 日 時：令和2年2月26日（水）18:00～20:00

II. 場 所：豊島区本庁舎 5階 507会議室

III. 部員名簿：

区 分	所 属 ・ 役 職	氏 名	備 考
部会長	横浜国立大学 教授・副学長	中村 文彦	
副部会長	東京大学 工学研究科 社会基盤学専攻 教授	羽藤 英二	欠席
〃	イーグルバス株式会社 顧問	坂本 邦宏	
〃	日本大学 理工学部 土木工学科 教授	大沢 昌玄	
部員	国土交通省 都市局 街路交通施設課 街路事業調整官	青柳 太	欠席
〃	国土交通省 都市局 街路交通施設課 街路交通施設安全対策官	奥田 謁夫	
〃	東京都 都市整備局 都市づくり政策部 土地利用計画課長	高橋 竜太郎	代理
〃	東京都 都市整備局 都市基盤部 交通企画課長	長尾 肇太	欠席
〃	東京都 都市整備局 都市基盤部 交通計画調整担当課長	江水 淳	
〃	東京都 都市整備局 都市基盤部 街路計画課長	神子 信之	代理
〃	東京都 建設局 道路管理部 安全施設課長	水飼 和典	代理
〃	警視庁 交通部管理官 都市交通管理室長	椎名 啓雄	
〃	警視庁 池袋警察署 交通課 課長	吉越 守	
〃	警視庁 目白警察署 交通課 課長	和田 誠	
〃	警視庁 巣鴨警察署 交通課 課長	塩田 竜也	
〃	一般社団法人東京バス協会 常務理事	二井田 春喜	
〃	公益財団法人東京タクシーセンター 指導部 施設管理課長	玉田 隆広	
〃	東京商工会議所 豊島支部 名誉会長	鈴木 正美	欠席
〃	豊島区商店街連合会 会長	足立 勲	代理
〃	豊島区町会連合会 副会長	塚田 義信	
〃	豊島区観光協会 名誉会長	齊木 勝好	欠席
〃	豊島区 副区長	呉 祐一郎	欠席
〃	豊島区 都市整備部長	奥島 正信	欠席
〃	豊島区 都市整備部 土木担当部長	原島 克典	

IV. 議事次第

1. 開会
2. 部会長挨拶
3. 議事
 - 1) 第4回池袋駅周辺地域再生委員会・交通検討部会議事の確認
 - 2) 南北区道の歩行者優先化の検討について（資料1）
 - 3) 池袋副都心交通戦略の更新について（資料2、資料3）
4. その他
5. 閉会

V. 配布資料

議事次第

- 資料1 令和元年度（2019年度）実証実験結果の報告
- 資料2 池袋副都心交通戦略の更新
- 資料3 池袋副都心交通戦略更新版
- 資料4 第5回池袋駅周辺地域再生委員会・交通検討部会 委員名簿
- 参考資料1 第4回池袋駅周辺地域再生委員会・交通検討部会議事録（案）

VI. 議事概要

○開会

（事務局）

- ・前回（2019年10月21日）の第4回交通検討部会では、南北区道の歩行者優先化に向けた検討において課題となっている荷さばき車両への対応方法と実証実験の実施について及び国土交通省の「都市・地域総合交通戦略要綱」の改定を受けた池袋副都心交通戦略の数値目標となる新たな指標の追加についてご議論いただいた。本日は、実証実験の結果の報告と池袋副都心交通戦略の更新についてご議論いただきたい。

○座長挨拶

（座長）

- ・今回は、実証実験結果の報告と今後に向けての動きという点で大事な局面である。しっかりと議論をして前に進めていきたい。

○資料の取り扱いについて

- ・資料1～資料4は公開、参考資料1は現時点では（案）であり内容が未確定なため非公開とする。

○傍聴者の確認

（傍聴者あり：1名）

○事務局より「第4回池袋駅周辺地域再生委員会・交通検討部会議事の確認」の説明

(中村部会長)

- ・議事録については承認ということでよいか。

(一同)

- ・異議なし。

○事務局より「資料1：令和元年度（2019年度）実証実験結果の報告」の説明

討議内容は以下のとおり。

(大沢副部会長)

- ・ヤマダ電機の荷さばき場に設置した荷さばきスペースの利用がなかったということだが、路上駐車調査の結果をみると、平常時も実験時もヤマダ電機の荷さばき場の前の道路に路上駐車が多いという結果となっている。実験時もヤマダ電機の荷さばき場の前の道路の路上駐車状況に変化がなかった理由は何か考えられるか。

(事務局)

- ・ヤマダ電機の荷さばき場の前の道路は普段から路上駐車が多い区間である。ヤマダ電機自体は、普段から土日は昼12時までしか荷さばき（納品）をしていないが、関係車両や集荷などは一部あるということである。それらの車両が実験中も路上駐車していたことは考えられるが、明確な理由は分からない。

(大沢副部会長)

- ・ヤマダ電機の荷さばき場に荷さばきスペースを設置したのでそこを利用して頂ければよかったのだが。

(事務局)

- ・ヤマダ電機の荷さばき場は間口が広く、荷さばき場の敷地と道路とを跨いで駐車している荷さばき車両も多い。それらの車両も調査上は路上駐車にカウントしているので、そういったことも調査結果に影響していると考えられる。

(中村部会長)

- ・きちんと荷さばき場の敷地内に駐車していない実態があるということだが、それは問題ないのか。

(事務局)

- ・問題はあると考えている。荷さばき場があるのだからきちんと敷地内に駐車して荷さばきを行うのが原則であると考えている。

(中村部会長)

- ・地元の理解も進んでおり協力的になってきているとは感じているが、細かいところについてはどういったルールを作るか、どこを落としどころにするかだと思ふ。実態を把握して事業者に協力をお願いするなど丁寧に対応して頂きたい。

(事務局)

- ・実態の把握など検討したい。

(坂本副部会長)

- ・周辺店舗・オフィスへのアンケートの回答率が低いがこれをどう捉えるべきかということ

について、回答していない人は強い反対がないからで問題意識がある人は回答するだろうと考えれば、施策への反対はないという好意的な捉え方もできると思う。とはいえ、この先施策を進めるにあたっては、検討結果を地元フィードバックして改めて地元の理解を深めることも検討して頂きたい。特に荷さばきルールを作っていくにあたっては必要性を理解してもらい地元の機運を高めるということも大事なので、是非検討して頂きたい。また、事前に各店舗を直接訪問して丁寧に説明を行ったにも関わらず、アンケートで「実験のことを初めて知った」という回答も2割程度あった。他の実験や施策でも必ずそういう状況は起るし、エリアの特性で店舗の入れ替えも多い地域なので、丁寧に地道に進めていくということを資料の中にも入れて頂きたい。

(事務局)

- ・ご指摘のとおりと考えている。南北区道の歩行者優先化の実証実験は今回で3回目になるが、それでもアンケートの回収率が上がらない状況である。やれることはやっているつもりではあるが、まだ足りない部分もあると感じている。引き続き丁寧に地元を訪問するなど、頂いたご意見を参考に今後も進めていきたいと考えている。

(中村部会長)

- ・他の事例でも地元の理解を得るのは皆苦労していると思うが、繰り返し行くしかない。今回の実験である程度結果がまとまり地元で展開していくと思うが、荷さばきルールを作っていくときも関わってくることであり、繰り返し行くしかない。また、店舗の入れ替えが激しいと「聞いていない」という人もいるだろうし、何度でも行くことが必要だと思う。大変だと思うが、繰り返し周知を続けていって頂きたい。

(中村部会長)

- ・今回の実験である程度結果がまとまったと思う。今後の取組として資料1のP.30の内容で進めることで交通検討部会として承認するという事で宜しいか。

(一同)

- ・異議なし。

○事務局より「資料2：池袋副都心交通戦略の更新」の説明

討議内容は以下のとおり。

(椎名部員)

- ・「賑わいのある歩行者空間の創出」の追記内容について、通行空間の確保の例として示されている写真で、オープンカフェの写真は通行空間と賑わい空間が舗装の色で明確に分けられているが、マルシェの方は通行空間と賑わい空間が明確に分けられていないように見える。どこで区分されているのか。

(事務局)

- ・写真では分かりづらいが、実際にはマルシェの方もオープンカフェと同様に通行空間と賑わい空間が舗装の色で分けられている。

(椎名部員)

- ・歩行者に明確に分かるようにしっかりと空間を分けるということが趣旨なので、それが分かるような写真を使って頂きたい。

(事務局)

- ・承知した。分かり易い写真に差し替えることとする。

(中村部会長)

- ・本交通戦略は多くの人が見る資料なので、分かり易く記載するよう配慮して欲しい。

(坂本副部会長)

- ・K P I に設定している「歩行者数」について、目標値は2割増加で、現状で混雑しているサンシャイン 60 通りは増加させずに周辺の道路（サンシャイン通り、南北区道、グリーン大通り）で増加させるということだが、K P I には入れなくてよいが、サンシャイン 60 通りの歩行者数もチェックするべきではないか。

(事務局)

- ・ご指摘のとおりと考えている。交通量調査を実施する際には、K P I で設定した3断面だけでなく、サンシャイン 60 通りも含めて主要な箇所は調査を行う。サンシャイン 60 通りのチェックも実施する。

(大沢副部会長)

- ・「歩行者数」の目標値については、平均値で2割増加で問題ないと思うが、最近公表されたパーソントリップ調査（P T 調査）では外出率が10%低下している実態もある中で、K P I で設定した数値だけでなく、色々な数値から動向を把握することも検討して頂きたい。たとえ目標年次（2035年）に2割増加していなくても、「他の地域は外出率が低下しているが池袋は低下していない、それはつまり魅力的な地域であるということだ」と言えることは大事である。他の数値の変化も是非モニタリングして頂きたい。

(事務局)

- ・他の地域と比較して池袋がどうなっているかを客観的に捉えることは大事だと考えているので、実施していきたい。

(中村部会長)

- ・これからも継続的にデータで見ていくというのは大切である。今回は最新のP T 調査データの公表がK P I 設定の作業に間に合わなかったこともあり、P T 調査のデータは利用しなかったが、P T 調査は10年毎に継続的に実施されている調査で、そういったデータから分かることもある。今回、国の交通戦略要綱の改定によりK P I 設定の作業を急遽進めたが、ビックデータ（スマホアプリのGPSデータ）を利用するなど、結果として学ぶところも大きかった。現在はデータで見られる時代であり、それを継続的に見ることの価値を我々は学ぶべきと思う。したがって、様々なデータや他の地域との比較分析も継続的に行って頂ければと思う。
- ・歩行者優先化に取り組んでいる都市は海外も含め多々あるが、うまくいっていない事例もある。池袋では、現在サンシャイン 60 通りに集中している歩行者を分散していく方向で施策を考えているが、そうした結果、池袋が魅力的なまちになるのか、地域にとって本当にいいことなのかはやってみないと分からないところもある。歩行者がどの道を選ぶのかはそれなりの理屈があり、その辺りの塩梅はなかなか難しい。したがって、歩行者優先化については引き続き丁寧に進めていって頂ければと思う。
- ・近年、国土交通省でも「ウォーカブル」という言葉を用いて「居心地が良く歩きたなるま

ちか」の形成を推進しているが、池袋では交通戦略策定当時から「歩行者を大切にすることが池袋では大事」という認識で交通戦略委員会で議論をしてきている。やっと国が追いついてきたかと感じているが、これまでやってきたことが間違っていなかったと思っている。地域からアイデアが出てきてそれを具体化してきたということが大事なので、交通戦略には是非そういった自負をもって書いて頂ければと思う。

- ・グリーンスローモビリティの記述について、「グリーンスローモビリティ」という用語に対しては学者として違和感を持っているが、移動のしやすさということと、ゆっくり見るということが大切だと思うので、その記述があるのは良いと思う。「グリーンスローモビリティ」という用語は国が決めたものなので、その用語の説明については国の説明を引用し、出典を記載しておくのが良いだろう。

(中村部会長)

- ・池袋副都心交通戦略の更新については、3月30日開催予定の池袋駅周辺地域再生委員会に議案として図る予定である。「池袋副都心交通戦略更新版」は公に残るものであるため、本日の部会で頂いた意見を参考に、誤解のないように、また魅力的な資料に修正をして欲しい。その他、軽微な修正が出てくるかもしれないが、これに関しては部会長預かりとさせて頂くことで宜しいか。

(一同)

- ・異議なし。

VII. その他

(事務局)

- ・池袋副都心交通戦略の更新については、3月30日開催予定の池袋駅周辺地域再生委員会に議案として図る予定である。
- ・本年度の交通検討部会は今回で最後となる。次回の交通検討部会の開催時期については、現時点では未定である。決まり次第、別途連絡する。

以 上